

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2013.12) 平成24年度:37～38.

新人看護師の看護診断に対するイメージからの研修内容の検討

安田明日美 三浦美佳 貝谷沙織 伊藤廣美

# 新人看護師の看護診断に対するイメージからの研修内容の検討

○安田明日美 三浦美佳 貝谷沙織 伊藤廣美

旭川医科大学病院

## 1. はじめに

A病院では、新人看護職員(以下:新人看護師)を対象に、院内講師による「新卒者看護過程研修」の中で看護診断の学習を行っている。しかし、平成22年度の研修後アンケートでは、「難しく、自分の考えを整理し理解しきれなかった」との意見が多かった。上山<sup>1)</sup>は、看護診断研修に関する教育方法の検討において「事前アンケートや課題により受講者のニーズや理解度の把握をすることが効果的である」と述べている。そこで本研究では、新人看護師の看護過程に関する疑問から、看護診断の理解を難しくしているイメージを明らかにし、効果的な研修内容について検討した。

## 2. 方法

- 1) 対象:平成23年度 新人看護師 63名
- 2) データ収集方法:入職3ヶ月後に実施する新卒者看護過程研修の事前課題として、看護過程に関する疑問を1人1題以上自由記載とした。
- 3) 研究期間:平成23年8月~平成24年2月
- 4) 分析方法:新人看護師の疑問を一項目に一内容を含む記録単位とし、意味内容の類似性に着目してグループ化し、サブカテゴリ、カテゴリネームをつけた。分類とサブカテゴリ、カテゴリネームについては研究者間で繰り返し検討を重ねた。

## 5) 倫理的配慮

口頭及び文書で研究の主旨を説明し、個人名が特定されないこと、得られた結果は学会などで公表することを説明し同意を得た。同意書の撤回は自由であり、協力できない場合も不利益が生じない旨の付記をした。

## 3. 結果

分析対象となった新人看護師63名の記述は126記録単位に分割できた。このうち、抽象度が高い記述等5記録単位を除く、121記録単位を分析した。その結果、A病院の新人看護師の疑問を表す26のサブカテゴリが抽出され、7の

カテゴリが形成された。カテゴリを【】、サブカテゴリを<>、記録単位を「」で表す。

## 1) 【看護診断とは】

新人看護師は、「“リスク状態”“促進準備状態”の意味」「“損傷”と“外傷”のように同じような診断名の違い」等の<看護診断ラベルの意味・違い>、<看護診断の構成要素>、<看護過程の一連の流れ>という看護診断そのものに関してや、「学生時ロイで行っていた看護計画と看護診断の違い」等<学生時代と看護診断の共通点・相違点>について疑問を持っていた。

## 2) 【看護過程の施設内における決まりごと】

新人看護師は、<情報収集・アセスメント・看護診断・評価の要点・注意点>、<看護診断すべきかの判断>、<どの問題を優先すべきかの判断>、<開示の判断>、<複数の看護診断が関連する場合の決まりごと>、<看護診断されていない場合の決まりごと>について疑問を持っていた。

## 3) 【看護過程のプロセス】

新人看護師は、「信念・価値観をどのようにアセスメントに活用するのか」等<情報からのアセスメント>や、<看護診断の導き方>、<目標の立て方>、<患者との看護計画の共有>、<評価の設定方法>について疑問を持っていた。

## 4) 【個別性を踏まえた看護過程の展開】

新人看護師は、「なぜ目標は継続になったのか」等<事例に適したアセスメント・看護診断・介入・評価>や<患者のニーズと看護師の考えが相違した場合の対応>に疑問を持っていた。また、「どのようなアセスメントが必要か」等考え方を問うものと、「この患者に合った診断名は何か」等直接的な答えを求めるものがあった。「数ある診断名の中から患者に最も合致したものを上手く導き出すには」「患者に適した診断名の検索決定」のように<個別性を看護過程に反映させる要領・手法>について疑問を持っていた。

## 5) 【心理・社会的側面の評価】

新人看護師は、「患者家族のストレス指標や心理的負担をどのように評価するか」「不安はどこを持って達成とすればよいのか」等く数値化が困難な心理・社会的側面の診断・評価>や「不安と診断した場合の目標」「目標の“効果的なコーピング技法”の具体的な判断評価」といったく不安と診断した患者の目標設定・評価>についての疑問を持っていた。

#### 6) 【患者への具体的な質問方法・関わり方】

新人看護師は、「信念・価値観等どのように質問するのか。他の項目と比べて聞きにくいいため。」といったく「価値・信念」の質問方法>や、「開かれた質問と閉じられた質問」といったく質問技法の使い分け>、く患者との具体的な関わり方>について疑問を持っていた。

#### 7) 【チームでの連携・役割】

新人看護師は、「計画をどのようにチームで共有し実践に生かすのか」等く看護計画のチームでの共有>やくメンバーの役割>、く手術室で診断が解決されなかった場合の病棟へのつなぎ方>に疑問を持っていた。

### 4. 考察

#### 1. 新人看護師の看護診断に対するイメージ

新人看護師は、看護診断と学生時代の看護過程や理論、経験との違いに疑問を感じており、両者が関連し合わないことにより看護診断を未知のものとして難しくイメージしている可能性がある。重要なのは診断に至るまでの思考のプロセスだが、看護診断イコール「難しい診断ラベルの当てはめ」と誤解されがち<sup>2)</sup>であることが指摘されている。疑問の記述で「診断名を検索」「最も合致した診断」等と表現されるように、新人看護師にも看護診断を患者に当てはめるといった誤解や、診断に正解・不正解があるかのような捉え方があると推察された。また、新人看護師は【個別性を踏まえた看護過程の展開】が大切と気づきながらも、く情報からのアセスメント>や【心理・社会的側面の評価】に困難を感じていた。そのため、データを得るための【患者への具体的な質問方法・関わり方】や診断への近道として要領よく診断を導くコツ・パターン、【看護過程の施設内における決まりごと】が必要と捉えていることが推測できる。一方、新

人看護師は【チームでの役割・連携】の視点を持つことができていた。カンファレンス等で看護診断の検討に加わり、研修後実際に患者を受け持つことも踏まえ、自分はどの行動したらよいか関心を持ったと考える。

#### 2. 新人のイメージからの研修内容の検討

第一に、【看護診断とは】については臨床で使用する看護診断の定義、診断指標、関連因子を患者の状況と照らし合わせながら具体的に学習することが重要である。次に、看護診断を既習知識と関連させながら、看護診断を含めた【看護過程のプロセス】について事例を通して学習すると効果的と考える。そして、【個別性を踏まえた看護過程の展開】【心理・社会的側面の評価】に関しては、臨床において心理社会的看護診断を使用することは非常に難しい<sup>3)</sup>と言われており、新人にとっての困難事例をもとに理論を用いて分析解釈し、知識と共にアセスメント力を高めていくことが必要である。また、こうした事例を用いた学習の中で、理論を活用したロールプレイ等【患者への具体的な質問方法・関わり方】を実践してみる場の設定も求められると考える。

### 5. 結論

新人看護師の持つ看護診断の当てはめ・決まりごとのイメージ、既習知識との解離、アセスメントや心理・社会的側面への困難感から研修内容を検討した。その結果、1) 患者の状況とつなげた看護診断の定義、診断指標、関連因子の学習 2) 事例を通じた看護診断を含む看護過程プロセスの学習 3) 新人看護師の困難事例をもとに理論を用いてアセスメント力を高める学習 4) 理論を活用したロールプレイによる実践的な学習、が効果的であると示唆された。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 上山さゆみ:看護診断研修に関する教育方法の検討-卒後2年目研修に焦点をあてて-,看護診断, 6(2), 130-131, 2011
- 2) 上鶴重美:基本から見直す看護診断第1版,医学芸術社, 2005
- 3) 田中周平,山勢博彰:クリティカルケア看護領域における状況的危機に対する心理社会的看護診断の実態,看護診断, 13(1), 48-56,

